

岩手山の火山活動解説資料（令和8年4月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

2026年2月頃から観測されている東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示す地殻変動は、2026年4月初め頃から停滞している可能性があります。一方、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示す地殻変動は、積雪のため確認はできないものの継続している可能性があります。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

西岩手山の想定火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、噴火時には火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

令和6年10月2日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表しました。その後警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1-②③、図2～3）

火山性地震は2025年8月中旬以降、少ない状態であるものの、2024年前半以前よりは多い状態で経過しています。なお、山頂やや深部の低周波地震¹⁾は、2024年12月中旬頃から発生頻度がやや高い状態で経過しています。

今期間、火山性微動は観測されませんでした。

1) 東岩手山では、山頂のやや深部（深さ6～9km付近）において、低周波地震の活動が認められます。この低周波地震の活動は、火山活動が静穏な状況下でもみられ、連続して発生することもあるため、噴火警戒レベルの判定基準に含めないこととしています。

・噴気など表面現象の状況（図1-①、図4～6）

黒倉山監視カメラによる観測では、16日、29日に大地獄谷で80m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね50m以下で経過しました。2023年及び2024年と比較して、2025年4月以降、非地熱域より温度が高い領域が増加しています。

柏台監視カメラ及び長山篠川原監視カメラによる観測では、黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和8年5月分）は令和8年6月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

・地殻変動の状況（図7～9、図11）

JAXAの衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の観測データを用いた国土地理院による干渉SAR解析²⁾結果（北行右観測）では、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺で2025年4月以降、2026年4月15日に実施された観測までノイズレベルを超える変動は見られません。一方、2025年10月に実施した南行右観測の解析結果では、大地獄谷周辺で衛星に近づく変動が見られており、その後の状況は積雪のため確認できませんが、ごく浅いところの膨張は継続している可能性があります。

2026年2月頃から観測されている東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示す地殻変動は、2026年4月初め頃から停滞している可能性があります。同様に、緩やかに継続していた山体西側のやや深部の膨張を示す地殻変動も2026年4月初め頃から停滞している可能性があります。

- 2) SARとはSynthetic Aperture Radar（合成開口レーダー）の略称であり、人工衛星や航空機などに搭載されたアンテナから電波を地表に向けて照射し、地表からの反射波を捉えることで、地形の形状及び性質を画像化することができます。干渉SAR解析とは同じ場所を計測した時期の異なる2回のSARデータの差をとる（電波を干渉させる）ことにより、地表の変動を詳細に捉える手法のことです。InSAR（Interferometric SAR）ともいいます。干渉SAR解析ではアンテナー地表間の距離変化量が観測地域で面的に得られます。

○ 活動評価

JAXAの衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の観測データを用いた国土地理院による干渉SAR解析結果（南行右観測、2021年8月1日から2025年10月3日）では、大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺において、衛星に近づく変化が見られました。大地獄谷周辺の変動は、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示していると考えられます。その後の状況は積雪のため確認できませんが、ごく浅いところの膨張は継続している可能性があります。

黒倉山付近を震源とする微小な火山性地震の発生頻度は2025年8月中旬以降、少ない状態であるものの、2024年前半以前よりは多い状態で経過しています。また、大地獄谷や黒倉山・姥倉山鞍部の地熱・噴気活動にもわずかな変化が認められています。

上記のことから、大地獄谷周辺における地下浅部の熱水活動はやや高まった状態を維持している可能性があります。

引き続き、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があり、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒する必要があります。

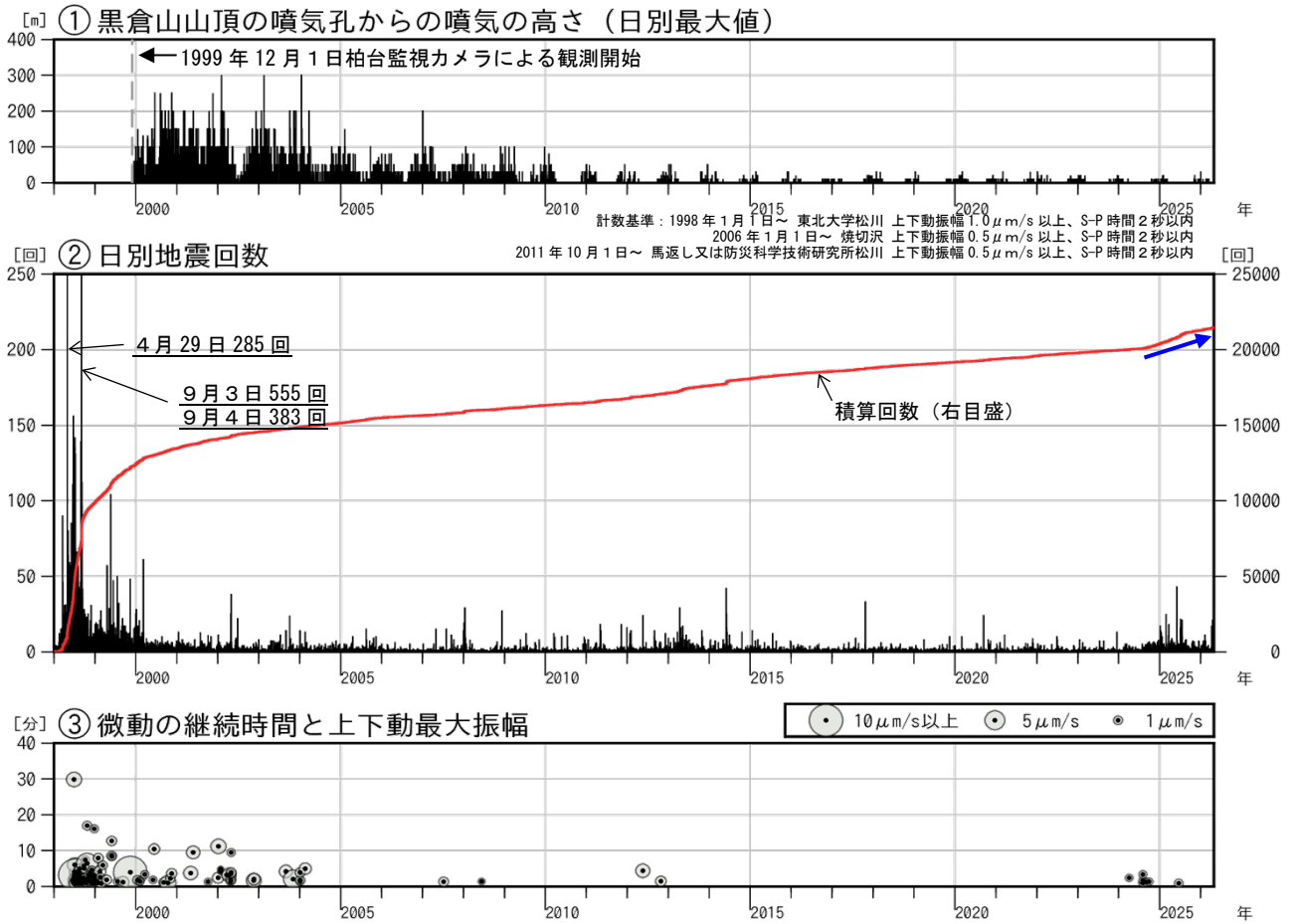


図1 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2026年4月）

②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。
 （1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

火山性地震は2024年7月頃からやや多い状態で推移しています（②青矢印）。今期間は、火山性微動は観測されませんでした。

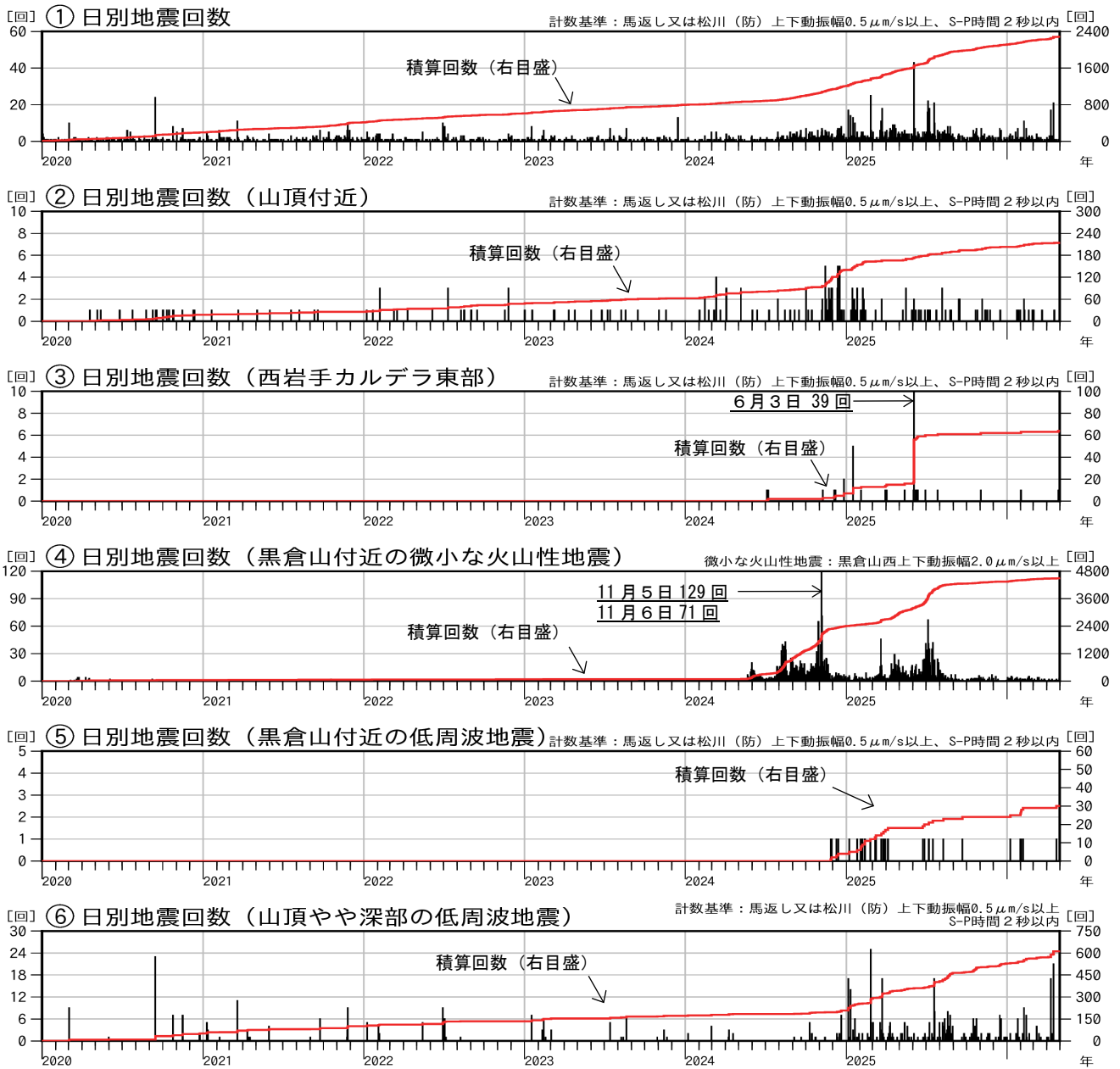


図2 岩手山 日別地震回数（2020年1月～2026年4月）

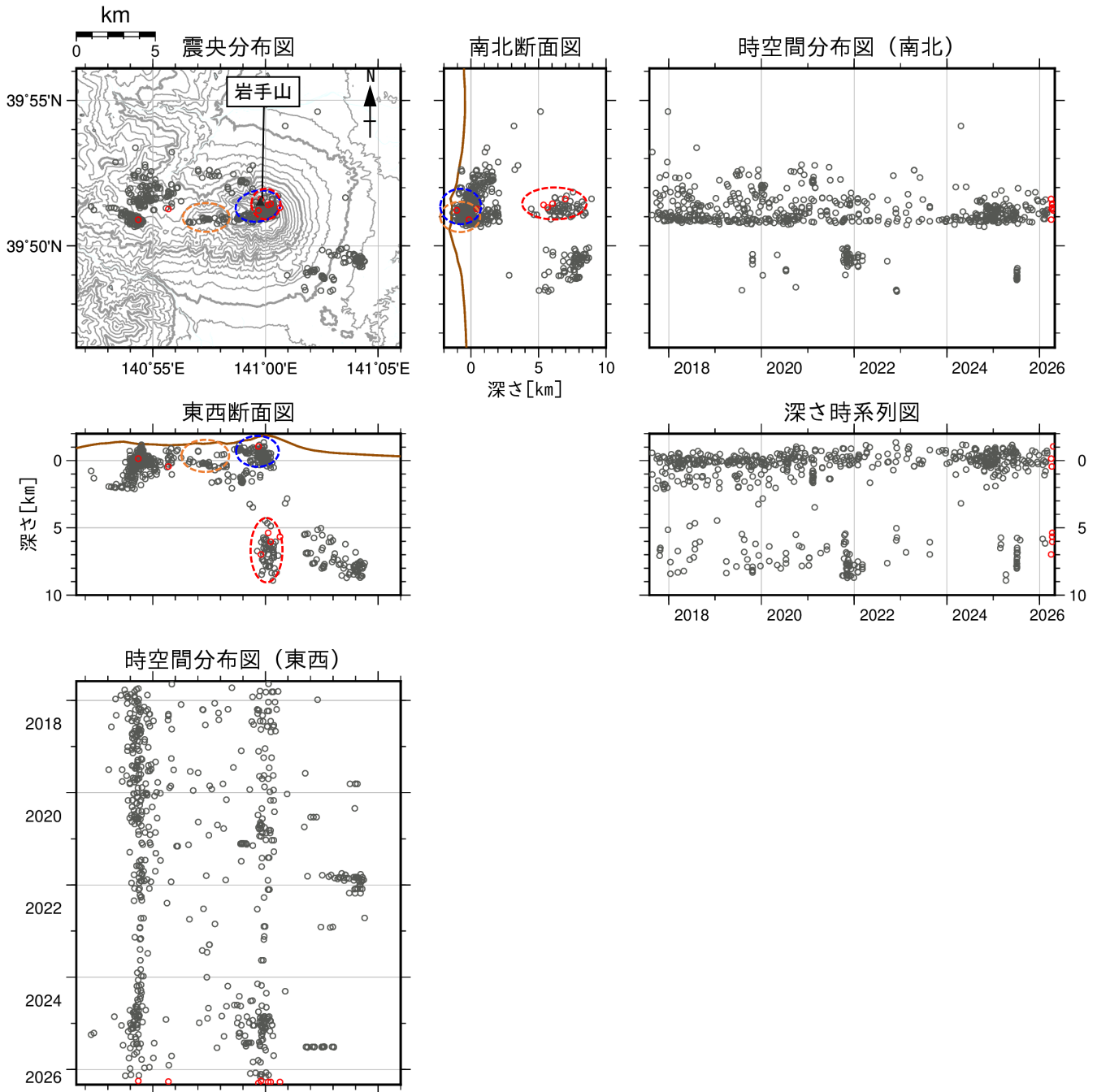
④黒倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別地震回数であり、①日別地震回数には含まれていません。

今期間、火山性地震は少ない状態で経過しましたが、引き続き2024年6月以前に比べて多い状態で経過しています（①）。

山頂付近及び西岩手カルデラ東部を震源とする火山性地震は、今期間少ない状態で経過しました（②③）。

黒倉山付近で2024年5月頃から発生している微小な火山性地震は、2025年8月中旬以降は少ない状態であるものの、2024年前半以前よりは多い状態で経過しています（④）。黒倉山付近の低周波地震は、1回観測されました（⑤）。

2024年12月中旬頃からは、山頂やや深部の低周波地震の発生頻度がやや高い状態で継続しています（⑥）。



○ : 2026年4月1日～4月30日 ○ : 2017年8月1日～2026年3月31日

図3 岩手山 地震活動（2017年8月～2026年4月30日）

・青破線は「山頂付近」及び「西岩手カルデラ東部」、橙破線は「黒倉山付近」のおおよその領域を示します。赤破線の領域は「山頂やや深部」で発生する低周波地震の震源域を示します。

今期間、震源が求まった火山性地震は7回で、そのうち山頂付近では1回、松川付近では1回、三ツ石山付近では1回、山頂やや深部では4回でした。西岩手カルデラ東部、黒倉山付近で震源が求まった火山性地震はありませんでした。



図4 岩手山 黒倉山監視カメラからの状況（4月19日）

・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約500m）の映像です。

大地獄谷では、16日、29日に80m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね50m以下で経過しました。

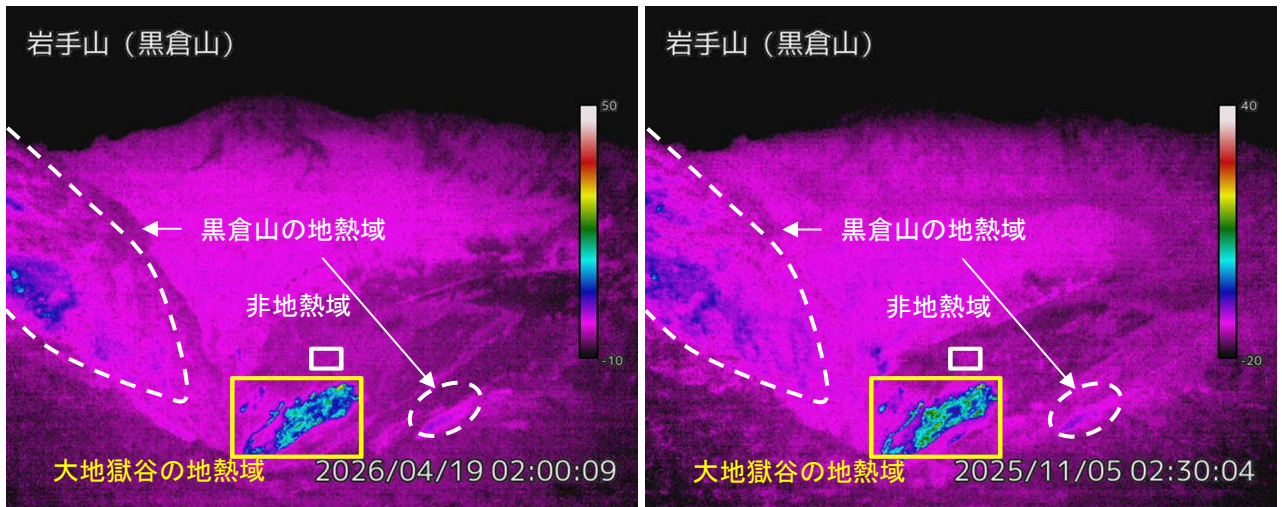


図5-1 岩手山 黒倉山監視カメラからの地表面温度分布
(2026年4月19日及び2025年11月5日)

- ・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約500m）で観測された赤外熱画像を示します。
- ・黄色四角と白四角の領域は、それぞれ図5-2の解析における大地獄谷の地熱域と非地熱域の領域を示します。

2025年11月の観測結果と比較した場合、大地獄谷では2026年3月に地熱域のわずかな拡大が確認されましたが、今期間、地熱域のさらなる拡大傾向は認められませんでした。

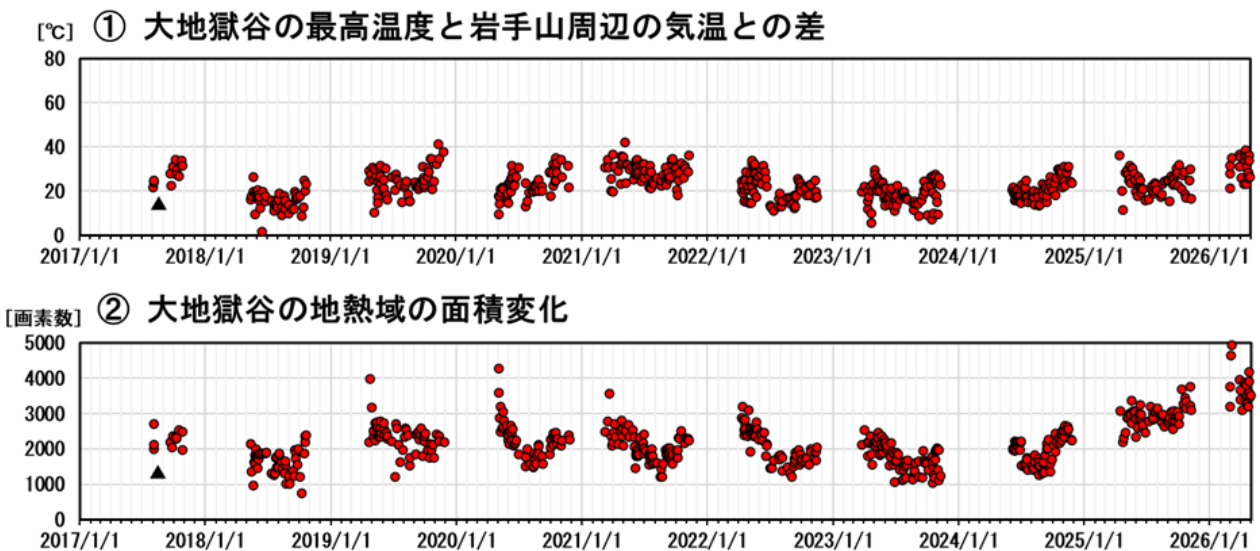


図5-2 岩手山 黒倉山監視カメラによる大地獄谷の地熱域の経過（2017年1月～2026年4月）

- ・①は大地獄谷の地熱域の最高温度と岩手山周辺（アメダス岩手松尾観測点）の気温との差を示します。
- ・②は大地獄谷の地熱域内で、非地熱域の平均温度よりも5℃以上高い領域の画素数を示します。
- ▲：解析開始を示します。

2023年及び2024年と比較して、2025年4月以降、非地熱域より温度が高い領域が増加しています(②)。なお、大地獄谷最高温度と岩手山周辺の気温の差は例年並みで経過しています(①)。

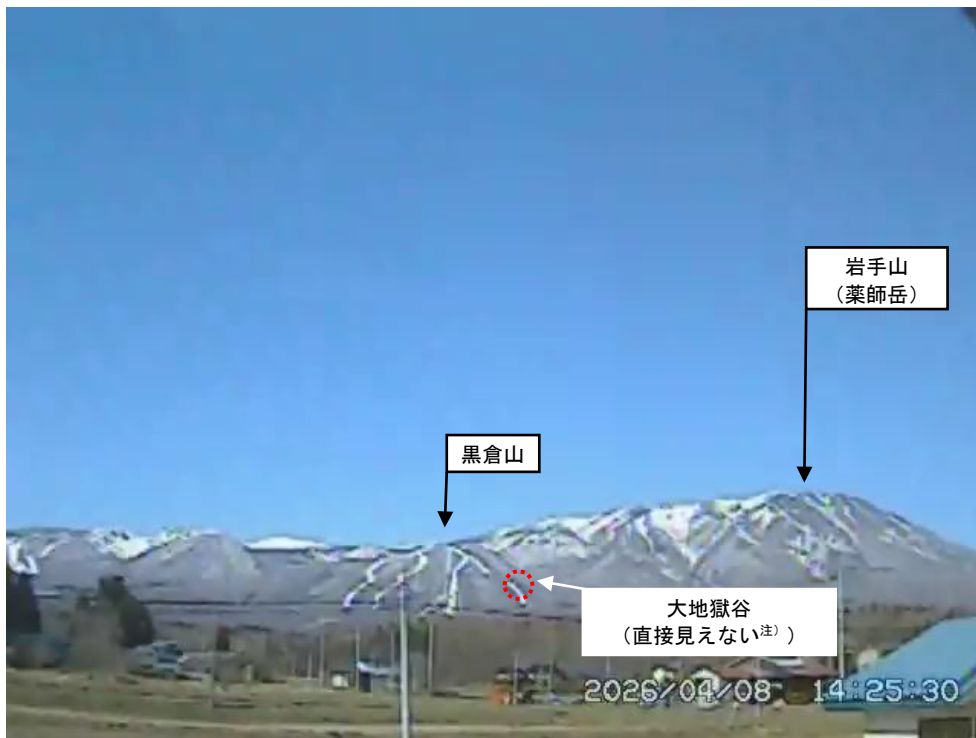
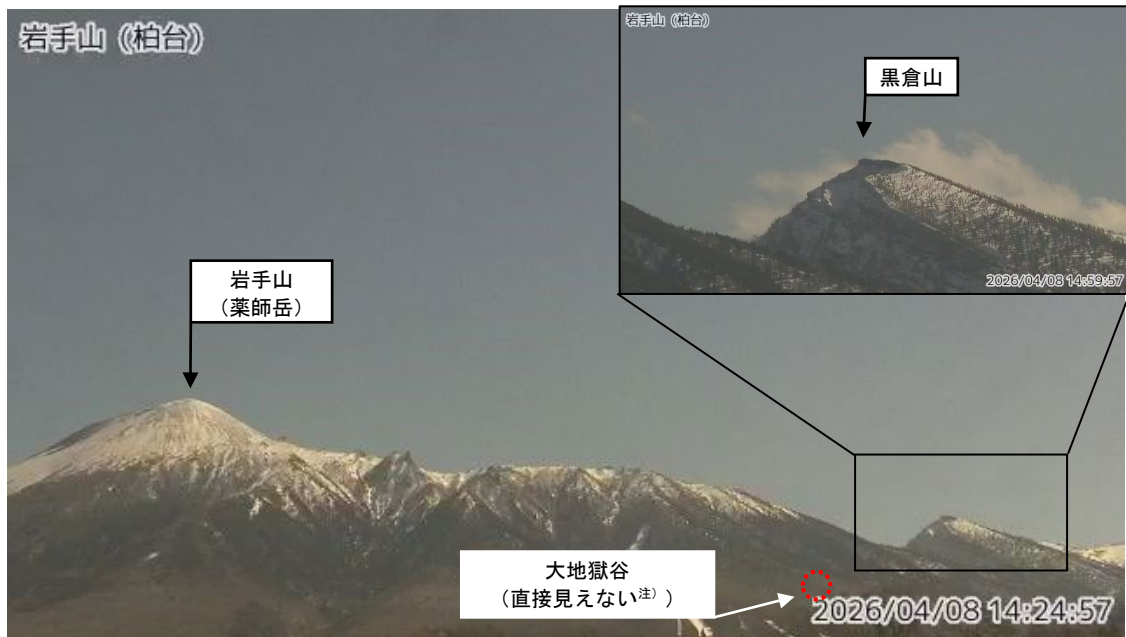
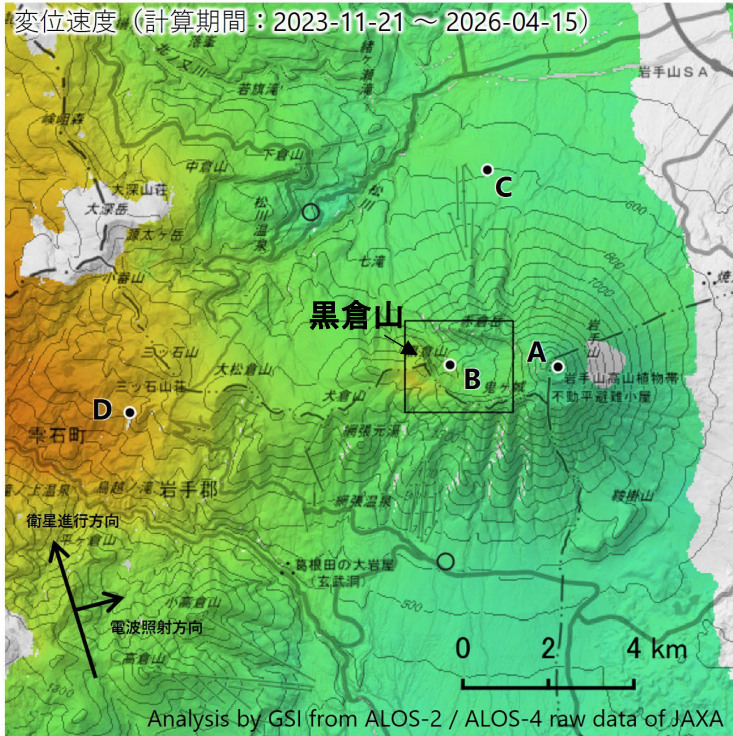


図6 岩手山 山頂部から黒倉山周辺の状況

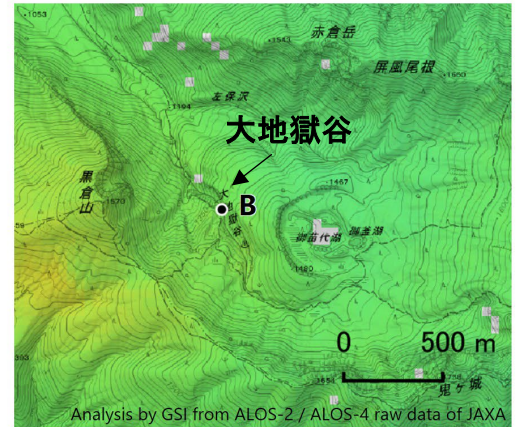
- ・上図：柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約7km）の映像（4月8日）です。
 - ・下図：長山篠川原監視カメラ（黒倉山山頂の南約9km）の映像（4月8日）です。
- 注) 大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに観測されます。
赤破線が大地獄谷の位置を示します。

黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。

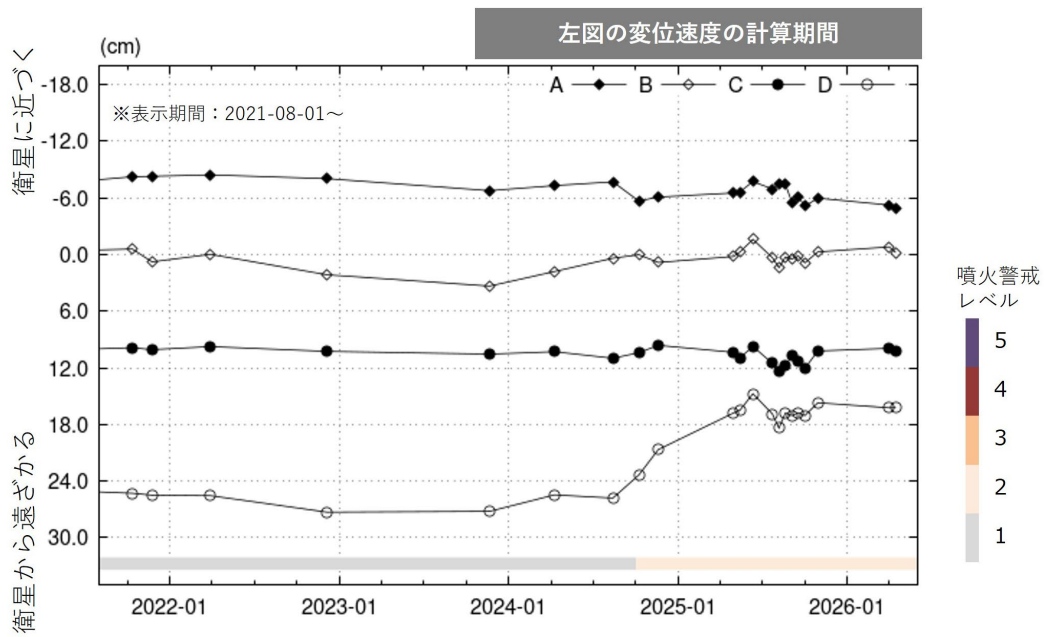
2023年11月以降の変位速度



【地点B周辺の拡大図】



※参照点は電子基準点「岩手松尾」付近
 ○ 国土地理院以外のGNSS観測点
 干渉SAR時系列解析手法：SBAS法
 衛星に近づくと ← → 衛星から遠ざかる
 -10 0 10
 衛星-地表視線方向の変位速度[cm/年]



地点A・B・C・Dにおける衛星-地表視線方向の変位の時系列

本解析で利用したデータは、国土地理院と JAXA との協定及び火山噴火予知連絡会衛星解析グループの活動を通して得られたものです。対流圏遅延補正には、気象庁数値予報格子点データを使用しています。

図7 岩手山 国土地理院の干渉 SAR 時系列解析結果（北行右観測）
 （2023年11月21日～2026年4月15日）

・国土地理院ホームページ「だいち2号」及び「だいち4号」観測データによる解析結果【速報】（2026年4月27日更新）（<https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/20240821Iwatesan.html>）に掲載されている図を引用しています。また、図に地名等一部加筆をしています。

JAXA の衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の観測データを用いた国土地理院による干渉 SAR 時系列解析結果（北行右観測）によると、大地獄谷（地点B）及び岩手山西部（地点D）において、2024年以降、衛星に近づく変動が見られていましたが、2025年4月以降、ノイズレベルを超える変動は見られません。

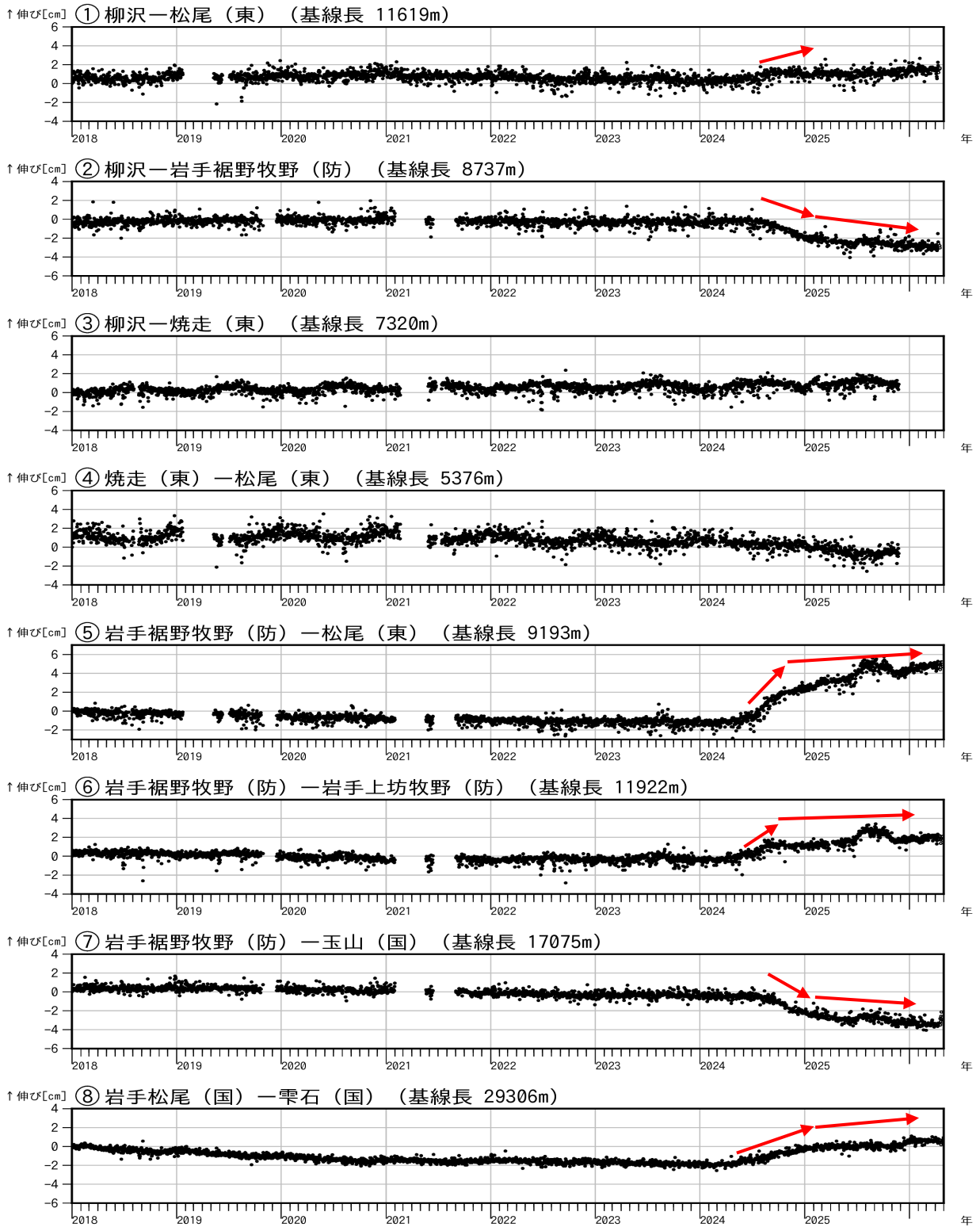


図8 岩手山 GNSS 基線長変化図（2018年1月～2026年4月）

- ・①～⑧は図11のGNSS基線①～⑧に対応しています。 ・空白部分は欠測を示します。
- ・（国）は国土地理院、（東）は東北大学、（防）は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ・基線②、⑤、⑥及び⑦では、6月下旬から11月下旬まで岩手裾野牧野（防）観測点に起因する変化がみられます。
- ・2025年12月8日に発生した青森県東方沖の地震及び2026年4月20日の三陸沖の地震に伴うステップ状の変化が一部基線で認められます。

2024年4月以降見られている東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す基線長の変化は、基線⑤及び⑥で2024年後半から、基線②、⑦及び⑧で2025年以降、鈍化が認められていましたが（赤矢印）、2026年以降、更なる鈍化、または停滞がみられます。

一部の基線（⑤、⑧）では、2025年12月頃から東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張を示すと考えられるわずかな伸びの変化がみられていましたが、2026年1月頃から停滞しています。

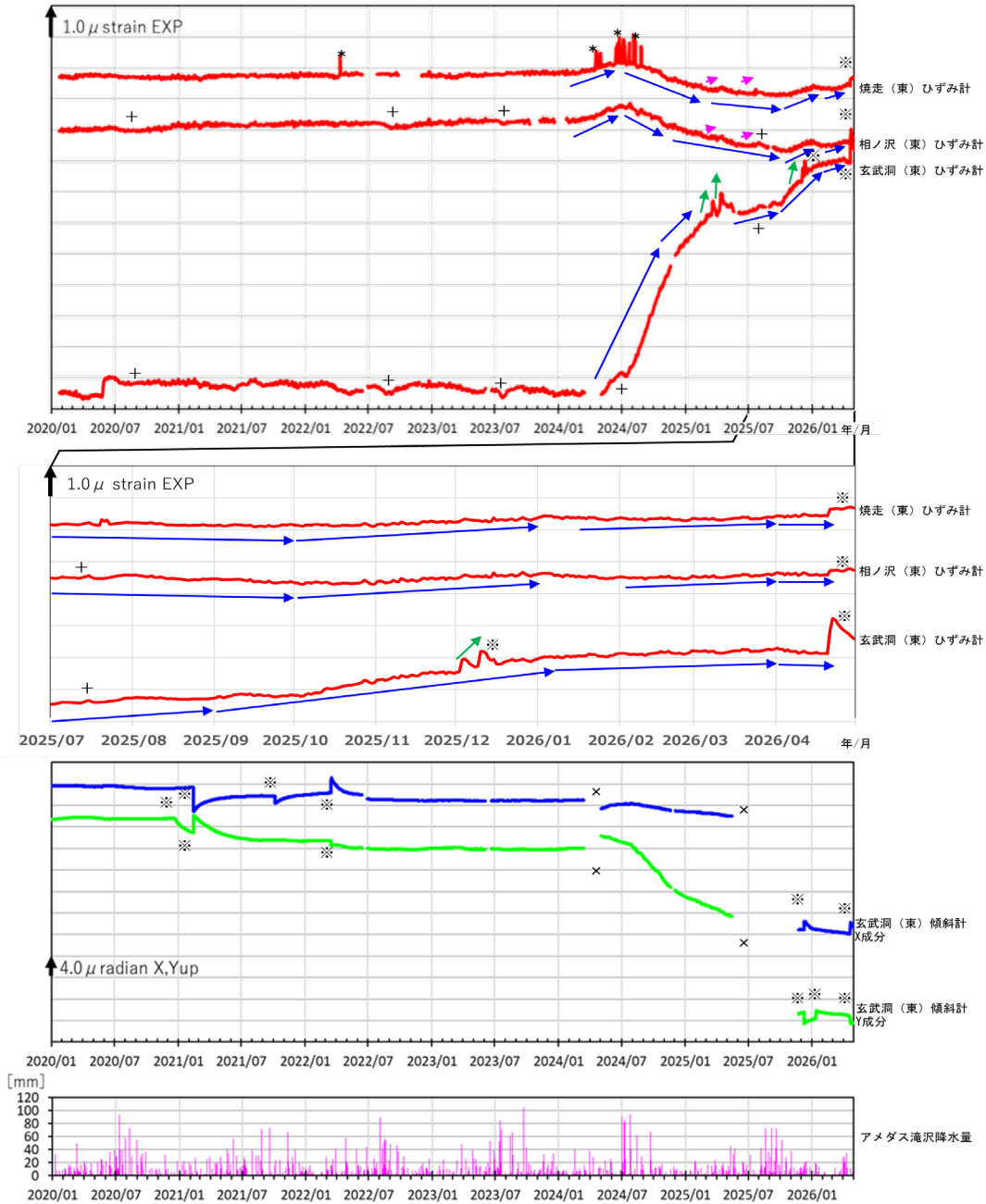


図9 岩手山 ひずみ計・傾斜計（日値・トレンド補正済み）による地殻変動の状況（2020年1月～2026年4月）

- ・ 2 段目は 2025 年 7 月から 2026 年 4 月までの期間におけるひずみの変化を示します。
 - ・ 空白部分は欠測を示します。
 - ・ （東）は東北大学の観測点を示します。
 - ・ 玄武洞（東）傾斜計の X 成分は N43° E 方向、Y 成分は N133° E 方向を正の向きとしています。
 - ・ 焼走（東）及び相ノ沢（東）のひずみ計では、2025 年 3 月中旬から 4 月上旬と 7 月中旬から 7 月下旬にかけて、短期的なひずみ変化がみられました（桃矢印）。
 - ・ 玄武洞（東）のひずみ計では、2025 年 3 月中旬、4 月上旬及び 12 月上旬に膨張の変化率の一時的な増加がみられました（緑矢印）。
- * : 収録機器の不具合による変動です。 ※ : 遠隔地の地震による変動です。 × : 火山活動に起因しない変動です。
 + : 降水による影響の可能性がある変動です。

岩手山周辺のひずみ計では、2024 年 2 月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す変化（青矢印）が認められます。

ひずみ計や傾斜計による観測では、2026 年 4 月初め頃からひずみの変化や傾斜変動が概ね停滞しています。このことから、2026 年 2 月頃から観測されている東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張及び緩やかに継続していた山体西側のやや深部の膨張を示す地殻変動が、2026 年 4 月初め頃から停滞している可能性が考えられます。

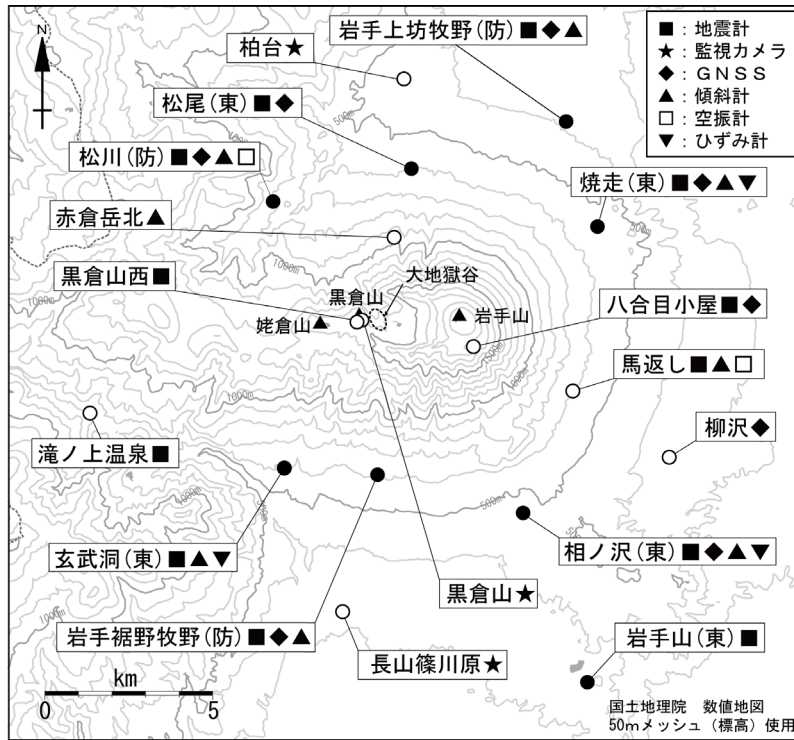


図10 岩手山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

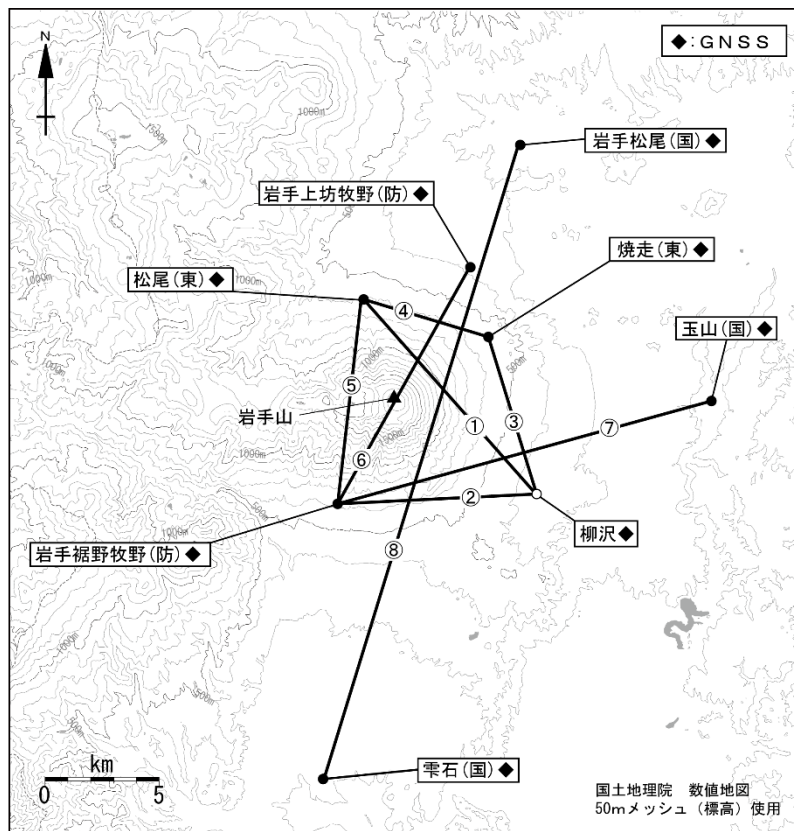


図11 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学
（防）：防災科学技術研究所